

実物から学ぶ

戸隠地質化石博物館

田辺智隆先生

実施日：令和3年9月7日（火）



第10回目は、戸隠地質化石博物館から田辺智隆先生をお招きし、「実物から学ぶ」というテーマでお話いただいた。前半は、保科百助先生の「地質学は全ての学問の土台である」という言葉から、立科町がかつてどのような土地であったかを教えていただいた。山・化石・地質についての詳しい解説、立科町は遥か昔海の底にあったという事実に、生徒は驚くと同時に聞き入っていた。後半は、様々な動物の骨格（頭蓋骨）標本を観察し、何の動物の骨かを推測したり、動物によって頭蓋骨の形や大きさに違いがあるのはなぜかを考えたりした。田辺先生から、『ものの形や大きさ・構造の違いには、きちんと意味がある』と教えていただき、どんなものが対象であっても「なぜ？」「どうして？」と疑問や好奇心を持つことが、学びの第一歩であると感じた。

【生徒の授業日誌より】

・地質学は奥が深く、とても興味深かった。化石で昔の人の生活が分かったりする。自然を知らない生き抜くのは難しいそうだ。長野県は大昔は海だったと聞いてびっくりした。

・どんな物にも歴史があるということがわかった。どんな生き物にも人生があり、生き様がある。どんな物もどんな生き物も、永遠には続かない。それがこの世のルールだと思う。

・化石や骨の形を見て生活スタイルが分かるのがすごい。過去を振り返ると未来が見える、ということがはじめはわからなかったけど、説明や昔の出来事を聞いたら納得できた。

・長野県は昔海で、何の生き物がいたのかを知ることができた。貴重な化石を沢山見て触ることができ、貴重な体験ができた。昔の長野県の山や地形がどのような状態だったのか知れてよかった。

・大昔の日本は中国と陸でつながっていて、ゾウなどが歩いてきたことにびっくりした。いろいろな動物の骨を見て、同じ動物でもすべて一緒じゃないし、ひとつひとつが違ってけっこうすごかった。骨ってけっこうおもしろい。

・沖縄に世界最大の豆があるとは知りませんでした。触ってみると硬くて、カランカランと音がしました。戸隠山は知っていましたが、化石が出てくるとは知りませんでした。保科さんがいろいろなところで石を見つけるのがすごいなと思いました。

・平賀源内が、化石が薬になると考えた発想がある意味すごいなと思いました。結果はあまり良くなかったみたいですが、みんなと少し違った考えをできる人はカッコいいなと思います。